

「終末の徴」

2015年12月04日

ルカによる福音書 21 章 8 節～19 節。イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、ついて行ってはならない。戦争とか暴動のことを聞いても、おびえてはならない。こういうことがまず起こるに決まっているが、世の終わりはすぐには来ないからである。」そして更に、言われた。「民は民に、国は国に敵対して立ち上がる。そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。しかし、これらのことがすべて起こる前に、人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王や総督の前に引っ張って行く。それはあなたがたにとって証しをする機会となる。だから、前もって弁明の準備をするまいと、心に決めなさい。どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授けるからである。あなたがたは親、兄弟、親族、友人にまで裏切られる。中には殺される者もいる。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくならない。忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。」

主イエスの弟子たちはエルサレム神殿の荘厳さに感嘆して「なんとすばらしい石、なんとすばらしい建物でしょう」と言った。主イエスは「あなたがたはこれらの物に見とれているが、一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る」と神殿の崩壊を予告された。弟子たちは神殿崩壊など考えられず、そんなことがあるとすれば、歴史の終り、終末であると思った。そこで、それはいつ起こるのか、起こる時はどんな徴があるのかと尋ねた。その問いに主イエスは黙示的な表現で答えている。

自分がメシア（キリスト）であると名乗る者たち、また、終末が近づいたと言う者たちが大勢現れるが、彼らに惑わされ、ついて行ってはならない。戦争や暴動が起こるが、怯えてはならない。「民は民に、国は国に敵対して立ち上がる。そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。」天に徴が現われ、終末の時が必ず来るが、すぐには来ない。これらのことが起こる前に、あなた方は主イエスの名のために迫害され、会堂や牢に引き渡され、権力者たちの前に引っ張り出される。その時が、あなた方の証しの機会となる。しかし、前もって弁明の言葉を準備する必要はない。どんな者にも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、私があなた方に授ける。あなた方は親、兄弟、親族、友人にまで裏切られ、中には殺される者もいる。主イエスの名のために、あなた方は全ての人々に憎まれる。しかし、あなた方の髪の毛の一本も決してなくならず、神の守りの中にある。最後まで忍耐して永遠の命を勝ち取りなさい。

主イエスは「恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる」と黙示的表現で終末の到来を語られた。しかし、その前に、戦争、暴動、地震、飢餓、疫病などの混乱がある。その中で、主イエスを信じ、従う者たちは様々な苦難に遭い、親しい者との争いや死もあるが、その時こそが、主イエスの福音を証しする時である。証しの言葉と知恵は主イエスが授け、神が守ってくださる。終末を待ち望むクリスチャンは、混乱した「今」を忍耐して、神が主イエスの十字架と復活において生を是認された者同志、共に生きよという福音を信じて、伝道する。その者に確かな永遠の命が約束される。終末信仰は「今」を生きることである。